

後輩たちへのエール！ その39

2020年6月5日

今いる場所は、世界と繋がっている。

◇今回は、伊藤克成さん（広告代理店勤務）のエールです！

2019年9月20日18時29分。

東京スタジアムの大型ビジョンに映し出される60、59、58、57…という数字。

会場には約5万人の観衆。

テレビの前にいる世界中の何億人という視聴者。

カウントダウンが進む。

10、9、8、7、6…

会場のボルテージは最高潮に達し、観客が一体となって5、4、3、2、1と叫ぶ。

時計の針は18時30分。

こうしてラグビーワールドカップ2019日本大会は開幕した。

関高校でラグビーを始め、2年生の時にテレビでラグビーワールドカップを初めて見てから24年後、私はそのラグビーワールドカップの開会式の演出を手掛けていた。

ラグビーワールドカップ2019日本大会 オープニングセレモニー

<https://www.youtube.com/watch?v=GLTza7PVQs0>

今、関高校で学ぶみなさんは、コロナ禍にあり日常が大きく様変わりしたことでしょう。

その中で自分の将来を考える。

このとてつもない難題に立ち向かうみなさんの役に立つことが少しでもできれば。

そんな気持ちで寄稿いたしました。

冒頭で触れたラグビーワールドカップ2019日本大会。

私は、大会のプロモーション、開会式の演出、各試合における映像・音楽・照明といった会場演出、表彰式の演出をさせていただきました。

1993年の春、もし関高校でラグビーを始めていなかったら、おそらく私は全く違う2019年の9月20日を迎えていたことでしょう。

自らの意思があったとはいえ、たまたまラグビーを始め、たまたま映像や音楽関係の仕事に就き、たまたま日本でラグビーのワールドカップが開催されるという偶然が重なったことで、この大会に携わることができました。

写真①

開幕前日、世界中のメディアに対して開幕式の企画意図や演出内容について説明。(中央で話をしているのが私です)



写真②

関市で事前キャンプを行った南アフリカが優勝。この表彰式の演出も手掛けました。



振り返ってみると、私がいた関高校のグラウンドは世界と繋がっていたのです。

そして、今みなさんがいる場所も必ず世界と繋がっています。

この「世界」とは、インターナショナルやグローバルといった意味合いだけではありません。自分が知りたい「世界」、自分が極めたい「世界」。

マクロな世界からミクロな世界まで、ひとりひとり思い描く世界があるはずです。

私が自分の目指した世界に辿りつけた理由があるとすれば、それは「運の良さと諦めの悪さ」でしょう。

多くの失敗や挫折を経験しました。

多くの人に助けられました。

打ちひしがれても、また立ち上がれば道は続いています。

打ちひしがれたら、家族や仲間に癒してもらいましょう。

自分の境遇に悲観したり絶望したりする事なく、自分の目指す世界に自分のやり方で辿りついて下さい。(と言いつつ、悲観しても絶望しても良いと思います。その後ゆっくり立ち上がりまた歩き出しましょう。)

10年後か20年後か30年後か40年後か50年後か、みなさんは今いる場所からどんな世界に辿りつくのでしょうか。

自分に期待をして下さい。

そして、いつか振り返ってみた時に「関高校が原点」と言える、そんな高校生活になることを願っています。

最後にひとつ有名なエピソードを。

パナソニックの創業者であり経営の神様と言われた故・松下幸之助は、就職活動でようやく最終面接に辿りついた学生たちにこう尋ねたといっています。

「あなたは運が良い方ですか？」

さて、あなたはどうか答えますか？